

# 眼輪筋痙攣に伴う眼瞼下垂に対し、 Suture Anchoring System を使用 して眉毛挙上手術を行った経験

た なべ なぎ と 1) き しま けん じ 2)  
田 邊 渚 人 貴 島 顕 二  
た ばら ひで き  
田 原 英 樹 3)

キーワード：眼瞼痙攣，眼瞼下垂，眉毛挙上，Suture Anchoring System

## 要 旨

眼瞼痙攣は、眼輪筋を含む閉瞼筋が不随意収縮を起こし開瞼困難を生じる疾患である。日常の診療で遭遇する眼瞼下垂患者のなかで、一定の割合で眼瞼痙攣が含まれるものが存在している。我々は眼瞼痙攣に伴う眼瞼下垂に対して、Suture Anchoring System を使用して眉毛挙上手術を行い症状が改善した症例を経験した。若干の文献的考察を加え報告する。

## はじめに

本態性眼瞼痙攣とは、眼瞼周囲の筋、眼輪筋の間欠性あるいは持続性の過度の収縮により不随意的な閉瞼が生じる疾患で、他の神経学的、眼科学的異常が原因となっていないものと定義される<sup>1)</sup>。

ジストニアの一つであり、閉瞼筋の痙攣と考えられる。

閉瞼筋には眼輪筋、眉毛下制筋、皺眉筋、鼻根筋などが含まれており、表情筋の一部を構成している。原因として大脳基底核を中心とした錐体外路系の異常、三叉神経の感作などが指摘されてい

る。ミューラー筋機械受容器の過剰な進展刺激による三叉神経固有感覚が誘因であるという指摘もある<sup>2)</sup>。その場合は腱膜性眼瞼下垂症によるミューラー筋機械受容器の進展刺激は、眼輪筋、皺眉筋などの閉瞼筋を収縮させ、それがさらに開瞼抵抗となりミューラー筋伸展刺激を生じ悪循環に陥る。眼瞼下垂症例のなかにはこのような病態が一定の割合で含まれている。眼瞼痙攣が長期に続くことによって上眼瞼挙筋が脆弱化し、眼瞼下垂を合併することも考えられる。つまり、眼瞼下垂が誘因となって眼瞼痙攣が誘発される場合と、眼瞼痙攣が誘因となって眼瞼下垂が誘発される場合が考えられる。いずれにしても、お互いに誘発を繰り返す悪循環に陥る可能性がある。従って、時間の経過とともに下眼瞼の痙攣やまばたきの増加、進行すると開瞼自体が困難となり、失明をきたすこと

Nagito TANABE, et al.

1) 大阪大学医学部

2) 出雲徳洲会病院形成外科

3) 出雲徳洲会外科

連絡先：〒699-0631 島根県出雲市斐川町直江3694-1

出雲徳洲会病院